 ©2009 筑波大学生物学類

特集：卒業

生物学類学位記授与式謝辞

森本　麻美（筑波大学　生物学類４年）

卒業式を終え、学類長先生に学位記を頂き、大学生生活が終わりを告げました。まだ「大学生」という響きが懐かしいというほどではありませんが、着実に卒業したという実感が押し寄せてきています。新しい環境あるいは新しい立場での生活が始まり、戸惑うこともありますが徐々にその戸惑いを解消し、新たな生活にも適応してまいりました。このたび、つくば生物ジャーナルに載せていただく、またとない機会を得ましたので、学位記授与式の謝辞に一部追記しここに記させていただきます。

生物学類学位記授与式謝辞

４年前この大学にやってきたとき、皆さんは何を感じ、何を思いましたか？

新しく始まる生活に喜びを感じた人、逆に不安を感じた人、どうしていいか分からなくなってしまった人、とりあえず道に迷った人、きっと十人十色だったにちがいありません。

兵太郎池のそばで、私たちは初めて出会いました。その後、花見・バレーボール大会・新勧合宿・やどかり祭・スポーツデー・雙峰祭などの様々な学校行事と、授業・実験・実習・レポート・試験という数々の試練を乗り越え、私たち一人一人の間に強い絆が生まれました。今日この懐かしい教室に集い、ともに卒業できることを本当に喜ばしい事だと思っています。出会ったなかには、志を変えこの地を飛び出した者・あるいは志半ばで立ち止まり己と真摯に向き合った者たちもいました。一緒に卒業することはできませんでしたが、彼らの自分の夢・人生・なにより自分自身に対して素直で一途な姿は、私たちに「自分もそうであるか？」という疑問を投げかけ、確認させてくれると共に、新たな勇気を与えてくれました。私たちは単なる仲良しにとどまらず、つらいときにはその苦しみを、うれしいときにはその喜びを、心の底から分かち合える仲間であり続けたいと考えています。

私たちは再び４年前のように、喜びや期待・不安を抱えながら旅立とうとしています。この広大なキャンパスでともに喜び・迷い・悩み・ぶつかり・泣き・笑い…そんな一見当たり前の出来事を繰り返しながら、学んだこの４年間の経験や先生方に教わった物事が、一つ一つ私たちの中に積み重なっています。私たちは、これらを栄養に、今後それぞれの道で立派な花を咲かせる努力をしていきたいと思います。

さて在校生の皆さんは、まだ自分の卒業について考える機会はないと思います。しかし、大学生として過ごせる時間は限られていて、日に日にその時間は、確実に短くなっています。今のことに一生懸命で、遠くのことを意識するのは非常に難しいことかもしれませんが、少し先の自分を想像して、目標を決めておくと有意義に過ごせるのかもしれません。とにかく大学生の間にやっておきたいことを思う存分やってみてください。

私は親元を離れ、この大学にやってきて初めて自分を支えてくださる多くの方々の存在の暖かさと尊さに気が付くことができました。そこで最後に筑波大学・生物学類およびつくば生物ジャーナルのますますの御発展を祈念するとともに、個性あふれる私たちを暖かく見守り・支え・指導してくださった、生物学類の先生方をはじめ、先輩方、事務員の皆様、家族に、この場を借りて心より御礼申し上げます。

４年間本当にありがとうございました。

Communicated by Shinobu Satoh, Received April 17, 2009.